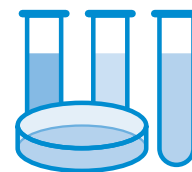


細菌検査統計報告 (当検査センター受託分)

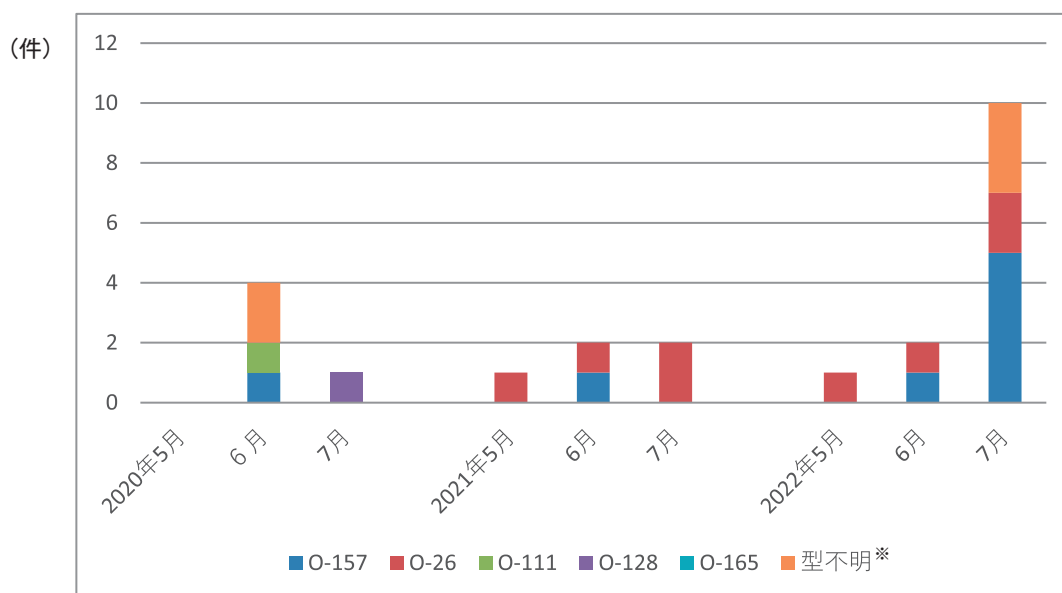


当検査センターで受託した細菌検査における統計資料を一部取り上げご報告いたします。全体の情報は当検査センターホームページに掲載されていますので、併せて診療にお役立ていただけたら幸いです。

2022年7月は、例年より糞便からの腸管出血性大腸菌が多く検出されていたので詳細を掲載いたします。

【細菌検出状況】

【糞便】腸管出血性大腸菌検出状況



※当検査センターでは、腸管出血性大腸菌の選択培地に発育した大腸菌のうち、血清型別検査陰性、ベロ毒素検査陽性のものを腸管出血性大腸菌血清型不明と報告しています。

腸管出血性大腸菌はベロ毒素を産生し、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群(HUS)を引き起こします。代表的な血清型に O157、O26、O111などがあります。

また、腸管出血性大腸菌感染症は感染症法における3類感染症(全数把握)に指定されているため、検出された場合は直ちに届け出が必要です。

上記の表は、当検査センターでの過去3年間の5月～7月の腸管出血性大腸菌の検出状況をまとめたものです。2022年7月には10件を認めており、例年に比べ多い検出状況となっています。

当検査センターホームページでは細菌検出状況(検査材料別)、細菌薬剤感受性情報(菌種別)、薬剤耐性菌分離状況情報についての情報をご覧ください。 <http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>

検査科微生物係